

運動疫学 ニュースレター



日本運動疫学会
Japanese Association of Exercise Epidemiology

令和4年5月30日発行 No.17

第24回日本運動疫学会学術総会のご案内

6月24日(土)・25日(日)の2日間、東海大学湘南キャンパスを会場に第24回日本運動疫学会学術総会を開催させていただきます。新型コロナウイルス感染症も予断を許さない状況ですが、現時点で第24回大会は対面開催で行います。大会テーマは「スポーツの価値の再考」で、スポーツを健康づくりや生活の質の向上を図ることに、さらに活用できないか、基調講演や教育講演で議論を深めたいと思います。また、3つのシンポジウムでは、運動疫学研究の第一人者から貴重なお話が伺えるかと思えます。会員の皆様の研究発表も大変楽しみです。マスク越しですが、熱い議論が出来れば幸いです。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

学術総会概要

主催：日本運動疫学会
主管：第24回日本運動疫学会学術総会実行委員会
日程：2022年6月25日(土)・26日(日)
会場：東海大学湘南校舎19号館
テーマ：スポーツの価値の再考

※詳細や最新情報は学術総会HP (<https://sites.google.com/view/jaee-meeting24/>) をご覧ください。

第24回学術総会大会長／東海大学 久保田 晃生

プログラム：

1日目：6月25日(土)：大会長講演、基調講演1「スポーツの価値の再考」(演者：高野 進(東海大学))、基調講演2「スポーツの価値の再考～運動疫学会に期待されるもの～」(演者：萩 裕美子(東海大学))、教育講演「スポーツの価値とスポーツ疫学研究」(演者：澤田 亨(早稲田大学))、プロジェクト研究報告、審査研究発表、ポスター発表
2日目：6月26日(日)：一般口頭発表、シンポジウム1「既存データの運動疫学への活用」(演者：阿部 巧(東京都健康長寿医療センター研究所)、柴田 陽介(浜松医科大学)、天笠 志保(帝京大学))、シンポジウム2「COVID-19の拡大環境下における身体活動・運動のすすめとその理解」(演者：香村 恵介(名城大学)、町田 征己(東京医科大学)、根本 裕太(日本学術振興会))、シンポジウム3「アクティブガイド改定」(演者：丸藤 祐子(駿河台大学)、岡 浩一朗(早稲田大学)、石井 香織(早稲田大学)、中田 由夫(筑波大学)、井上 茂(東京医科大学)、小熊 祐子(慶應義塾大学))



第24回大会 HP の QR コード

CONTENTS

1. 第24回日本運動疫学会学術総会のご案内1
2. COVID-19の拡大環境下における身体活動・運動2
3. 私と運動疫学2
4. 会員による英語論文紹介3
5. 分野横断型勉強会の企画案内3
6. 運動疫学セミナーに関するお知らせ4
7. 編集委員会からのお知らせ4

COVID-19 の拡大環境下における身体活動・運動

COVID-19 と身体活動ワーキンググループ／名城大学 香村 恵介

COVID-19 のパンデミックによって、人々の身体活動や運動機会は制限されたが、その影響は一様ではなさそうだ。子どもでは病気、肥満、障がい有者より大きな影響が観察された。成人では低所得／低学歴者ほど余暇の身体活動が少ないといったコロナ禍の格差が報告されている。高齢者では緊急事態宣言後に低下した身体活動量が、1人暮らしや社会的に不活発者で回復していないという報告もある。

このように、近年稀に見るパンデミックを経験したことで「社会的弱者ほど大きな影響を受ける社会」がよ

り顕在化したといえる。オンライン化が進み、新しい生活様式で人との直接的なつながりが希薄化する中で、人と会って（身体的距離は置きながらも）身体活動・運動を行うことは、人々のつながりを強化し、健康にも寄与すると考えられる。ポストコロナが見え始めた今こそ「仲間と一緒に体を動かすこと」の重要性を改めて学会から社会に発信していくことも重要かもしれない。



私と運動疫学

名誉会員／共立女子大学 川久保 清

私は虚血性心疾患の診断・治療、運動負荷心電図をキーワードにて内科臨床のキャリアをスタートしました（1980年代）。1988年第二次国民健康づくり運動（アクティブ80ヘルスプラン）が厚生省（当時）より提唱され、栄養・運動・休養の3本柱の運動が強調され、フィットネス施設が多数できました。バブルの影響もありました。私は地域の健康センターの運動実施上の健康管理について長く経験させていただきました。循環器病と運動の関連を検討していた関係から、平成元年（1989年）から、東大医学部保健学科（現在の健康総合科学科）に助教授として赴任しました。上司は厚生省健康増進課（当時）からきた故郡司篤晃先生で、厚生行政とのつながりができました。研究テーマは運動の健康影響であり、フィットネスクラブ等における運動の安全管理をメインのテーマにしました。循環器病の運動負荷心電図の研究は、友人から「化石」と揶揄されていましたが、多少は生きている化石としてガラパゴスの進化をみました。どちらかというとハイリスクアプローチ的志向で運動施設における運動療法の推進、運動指導者（現健康運動指導士、健康スポーツ医）の養成、運動療法の保険適用の推進などにたずさわりました。1996年には厚生省は成人病に代わって生活習慣病を提唱しましたが、その命名に関与したとされました。

第二次国民健康づくり運動に続いての第三次健康づくり対策は2000年に「21世紀における健康づくり運動（健康日本21）」として策定されました。その中の生活習慣の項目では、トップに身体活動・運動があげられ、今まで栄養の次だったのがトップになりました。また、運動だけでなく身体活動の重要性が提唱されました。健康日本21では10年後の2010年を目途とした数値目標が設定されましたが、身体活動・運動の領域の数値目標について厚生省から私に依頼がありましたが、丁度1998年に発足した運動疫学研究会の主要メンバーである下光輝一（東京医大教授（当時）、荒尾孝明治生命体力医学研究所所長（当時）のお二方に協力をお願いして作成しました。新宿の下光研究室で定期的に打ち合わせをしたのがなつかしい思い出です。運動疫学研究会から疫学の重要性、運動だけでなく歩行などの身体活動全般の重要性を学びました。ポピュレーションアプローチとしては歩きやすい街づくりが提唱され、健康日本21（第二次）では目標値が設定されています。私自身は2003年に共立女子大学の教職、管理職となり、学会活動から遠ざかるばかりでした。今回、難波先生の申し出で私自身の過去を振りかえる機会となり感謝いたします。学会のさらなる発展を祈念しております。



【会員による英語論文紹介】

Muscle-strengthening activities are associated with lower risk and mortality in major non-communicable diseases: a systematic review and meta-analysis of cohort studies.

Momma H, Kawakami R, Honda T, Sawada SS.
Br J Sports Med. 2022 (Online ahead of print).

東北大学 門間 陽樹

現在、身体活動ガイドラインでは、成人であれば少なくとも週2日以上の筋力向上活動（例：筋トレ）を実施することが推奨されている。これは主に筋力向上活動が筋量や筋力、身体機能、骨強度などの維持向上に好ましい影響を与えるエビデンスに基づいている。

一方、本邦の身体活動ガイドラインである「健康づくりのための身体活動基準 2013」では、具体的な推奨は明言されておらず、国民向けのアクティブガイドにおいて「筋力トレーニングやスポーツなどが含まれると、なお効果的です！」と言及されるに留まっている。そこで、身体活動基準 2013 の改定に伴い、本邦の身体活動ガイドラインにおいても筋力向上活動や筋トレの実施を積極的に推奨すべきか、さらに、筋骨格系の健康に対する影響だけではなく、死亡や疾患の予防的観点からも実施の推奨が支持されるのかを検討した研究が本論文である。死亡や疾患の予防的観点からも筋トレの実施を推奨することが支持された一方、やりすぎると却ってその健康効果は得られなくなってしまう可能性が示唆される結果が得られている。本論文は学会誌『運動疫学研究』にて日本

語による二次出版を予定しているため、論文の詳細はそちらに譲り、ここでは普段あまり触れられないその周辺について言及したいと思う。

幸運なことに、本論文は BMJ のプレスリリースに選出され、大きな反響を呼んだようだ。国内外問わず予想を超える取材を受け、これまでにない経験をさせてもらった。しかし、私を含め、論文の著者らは何も特別なことはやっておらず、これまで書いてきた論文と同じスタンスでこの研究にも取り組んだと言える。結局は、「どのような問いを立てるのか」「どのような問題に答えを出そうとするのか」が社会にインパクトを与える研究につながると実感した経験でもあった。そして、本研究の学術的なインパクトは今後試されることになるだろう。



BJSMB



BMJ Newsroom

分野横断型勉強会の企画案内

「運動と健康に関するオンライン研究（デジタル介入）の可能性」

運動と健康：分野横断型勉強会は、運動と健康について分野横断的に学び、交流することを目的として日本運動疫学会学術委員会が中心となって運営する会です。例年、日本体力医学会大会の前日に開催しており、次は2022年9月20日15時から開始予定です。肝心の内容ですが、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、感染リスクを下げられるオンラインシステムを活用した介入研究が世界的に注目されました。しかし、その方法の実際に関する知見は乏しく、コンセンサスもありません。

そこで、「運動と健康に関するオンライン研究（デジ

タル介入）の可能性」と題したシンポジウムを企画しました。デジタル介入の実際と可能性について、アプリやオンライン指導といった手法、子どもや高齢者といった対象集団に着目し、発表と討議を行い、参加者の理解促進と意見交換を図る予定です。参加費は1000円と参加しやすい値段です。詳細はおってご案内します。奮ってご参加ください。



学術委員会委員／帝京大学 桑原 恵介

運動疫学セミナーに関するお知らせ

セミナー委員長／東北大学 門間 陽樹

運動疫学セミナーは「身体運動関連分野における疫学マインドを広めること」を目指し、日本運動疫学会の理事・セミナー委員を中心とした運動疫学研究の第一線で活躍する講師陣による体系的でわかりやすい講義とグループワークによる研究計画立案演習で構成される2泊3日のプログラムで、1999年より毎年開催されてきました。しかし、昨今の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、2019年の開催が最後となり、その後は単発でのオンラインセミナーを開催してきました。

現在、セミナー委員会では、従来の合宿型のプログラムに近い形式での開催を目標に計画を立案しています。現時点では具体的な日程等を提供することはできま

せんが、これまで実施されていたセミナー内での講義はオンラインによる事前受講に切り替え、グループワークによる研究計画立案演習にセミナーの時間をより多く割り当てるプログラムを考案中です。具体的なスケジュールは、決まり次第、学会ホームページならびに会員のメーリングリストでご案内する予定です。

セミナーに一度も参加したことがない方、さらに、新たなセミナーを体験したい方の参加を心よりお待ちしております。



編集委員会からのお知らせ

会誌「運動疫学研究」編集委員長／東京都健康長寿医療センター研究所 笹井 浩行

編集委員会では、会誌「運動疫学研究」へのご投稿を促すために様々な取り組みをおこなっています。その一環で、昨年度から今年度にかけて取り組んでいるふたつの特集についてご紹介します。

2021年に「日本人の身体活動・座位行動の実態」という特集を企画し、原稿の募集を始めました。この特集は、日本運動疫学会プロジェクト研究「標準化された方法によって評価した日本人の身体活動・座位行動の実態」（研究代表者：井上茂先生）の一環で実施しているものです。

この特集の趣旨は、国内の地域や職域、学校等で実施した身体活動調査のデータや、特定の集団を対象に行った身体活動調査の結果などを集計してご投稿いただき、日本人の身体活動・座位行動の実態を明らかにしようとするものです。この特集の成果は、現在改定がなされている日本人のための身体活動ガイドラインの参考資料となることが期待されます。幸いにも50編以上の投稿をいただき、そのうち14編が23巻2号に掲載されています。

また、残りの原稿も24巻1号および2号に順次掲載される予定です。

2018年度からは「テーマ別論文募集」という特集を組

んでいます。この特集では特定テーマを設定し、関連する論文の投稿を促すもので、いわゆる call for paper に近い特徴があります。原著論文のみならず、資料や実践報告のご投稿を積極的に促している点も本特集の特色です。現在、6つのテーマが走っておりますが、時節柄、テーマ6「COVID-19と運動疫学」に関する投稿が多くなっています。また、2021年4月から新たに開始したテーマ5「地域での身体活動・運動の普及」は身体活動分野における普及と実装科学(Dissemination and Implementation Science)に関するテーマになります。現状は、このテーマに関する投稿はございませんので、ぜひ積極的にご投稿ください。

これら特集の詳細は、会誌ページ (<http://jaee.umin.jp/REE.html>) をご覧ください。最近では論文のハンドリングが以前より遅くなっており、ご投稿いただいている先生方には大変ご迷惑をおかけしております。順次対応しておりますので、何卒ご了承いただけますと幸いです。



日本運動疫学会の最新情報は公式ホームページを確認してください。公式HP：<http://jaee.umin.jp>

- ・会員の投稿論文を募集しています。
- ・会員の運動疫学研究を支援しています（セミナー、勉強会、プロジェクト研究）。
- ・新規会員を随時募集しています。



発行：日本運動疫学会
編集：日本運動疫学会 広報委員会
日本運動疫学会事務局
〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15
早稲田大学スポーツ科学学術院内
E-mail:jaee.info@gmail.com